



2022年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月12日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員

(氏名) 塩井 辰男

問合せ先責任者 (役職名) 経理本部 IR室長

(氏名) 藤波 俊行 TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2021年10月14日

配当支払開始予定日 2021年11月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第2四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第2四半期	71,032	4.2	2,144	—	3,808	—	2,125	—
2021年2月期第2四半期	68,169	△10.0	△1,224	—	△867	—	△1,696	—

(注) 包括利益 2022年2月期第2四半期 2,297百万円（—%） 2021年2月期第2四半期 △1,673百万円（—%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第2四半期	55.41	55.20
2021年2月期第2四半期	△44.24	—

(注) 2021年2月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第2四半期	82,302	53,037	63.3
2021年2月期	80,389	51,867	63.4

(参考) 自己資本 2022年2月期第2四半期 52,104百万円 2021年2月期 51,001百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2022年2月期	—	30.00	—	—	—
2022年2月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,230	3.4	5,400	498.1	6,040	196.4	2,510	—	65.45

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注) 詳細は、添付資料P.12「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年2月期2Q	44,392,680株	2021年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2022年2月期2Q	6,012,874株	2021年2月期	6,041,555株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年2月期2Q	38,366,268株	2021年2月期2Q	38,340,272株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- 四半期決算補足説明資料は、2021年10月13日(水)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 12
(継続企業の前提に関する注記)	P. 12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 12
(追加情報)	P. 12
(セグメント情報等)	P. 13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、国内における消費活動は依然として厳しい状況にあるだけでなく、感染が再拡大するなど先行きも不透明な状況にあります。

当フードサービス産業におきましては、2021年1月に発出された緊急事態宣言の解除以降、消費活動は回復の兆しが見られていたものの、4月以降には再度緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、外出自粛要請や営業時間短縮要請を受けるなど引き続き厳しい事業環境が続いております。また、中食産業におきましては、消費者のライフスタイルの変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響によるテイクアウトやデリバリー需要の増加によって堅調に推移する一方、外食企業や飲食店のテイクアウト参入など業態の垣根を越えた競争が激化しております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、既存ブランドの成長による更なる事業基盤の強化と、お客様や従業員の安全を考慮した店舗運営に注力しました。既存ブランドの成長につきましては、当社グループ工場で製造した商材を活用したキャンペーン展開や業態別にターゲットを明確にした販売戦略、スマホアプリ等を活用したデジタルマーケティングやデリバリーサービス導入店舗の拡大等によって店頭売上の拡大に取り組むとともに、引き続きFC化の推進に注力しました。

また、ほっともっとでは引き続きネット注文やデリバリーサービス、キャッシュレス決済の強化など非接触型へのオペレーションの改善を進めました。やよい軒ではテイクアウト需要や朝食需要の拡大により、お客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

国内の当第2四半期連結累計期間の既存店売上高につきましては、ほっともっとは5.5%増と好調に推移しました。しかしながら、やよい軒やMKレストランは一部地域での外出自粛要請や営業時間短縮要請の影響を受けたことで、やよい軒は2.6%増、MKレストランは21.6%減と引き続き厳しい事業環境が続きました。

[国内における既存店売上高の前年同期比]

	第1四半期 連結会計期間 (3～5月)	当第2四半期 連結会計期間 (6～8月)	当第2四半期 連結累計期間 (3～8月)
ほっともっと	106.6%	104.5%	105.5%
やよい軒	113.7%	93.1%	102.6%
MKレストラン	100.1%	67.9%	78.4%

また、海外につきましては、一部の国や地域によっては政府の要請によりテイクアウトやデリバリーのみの営業や、時間短縮や座席数限定の営業といった制約を受けるなど、厳しい事業環境が続きました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は710億32百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は21億44百万円（前年同期は、営業損失12億24百万円）、経常利益は38億8百万円（前年同期は、経常損失8億67百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億25百万円（前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失16億96百万円）となりました。

売上高につきましては、ほっともっと直営店の加盟店への移管による売上高の減少があったものの、ほっともっとややよい軒の既存店売上高が前年同期実績を上回ったことにより前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、ほっともっとややよい軒の既存店売上高の増加や内製化の推進等による粗利改善により前年同期実績を上回りました。なお、経常利益につきましては、各自治体からの営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金11億2百万円、雇用調整助成金2億39百万円を助成金収入として営業外収益に計上したことが主な要因であります。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第2四半期 連結会計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,493店	3店	6店	2,490店	4店
やよい軒	372店	1店	—	373店	—
MKレストラン	26店	—	1店	25店	—
合計	2,891店	4店	7店	2,888店	4店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第2四半期 連結会計期間末
ほっともっと	中国	2店	－	1店	1店
	韓国	11店	1店	3店	9店
	シンガポール	1店	－	1店	－
やよい軒	タイ	194店	－	8店	186店
	シンガポール	9店	1店	－	10店
	オーストラリア	6店	－	－	6店
	台湾	21店	1店	1店	21店
	アメリカ	4店	－	1店	3店
	フィリピン	6店	1店	－	7店
	マレーシア	4店	－	－	4店
合計	－	258店	4店	15店	247店

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

【ほっともっと事業】

持ち帰り弁当のトップブランドとして、安心・安全な品質管理体制のもと、おいしいごはんにこだわり、厳選した高品質の国産米を使用し、店内調理によるできたてのお弁当を提供することを基本に、当社グループ工場の活用を推進するなど、付加価値の高い商品の提供によってお客様満足度の向上を目指しました。

また、若年層、ファミリー層をターゲットとした商品の販売による新しい顧客層の獲得施策やお客様参加型の販促キャンペーン展開による継続的な来店促進に加え、引き続きネット注文やデリバリーサービス、キャッシュレス決済の強化など非接触型へのオペレーションの改善を進めました。

さらに、フランチャイズ展開につきましては、「ユニットFC制度」を利用して、引き続き新規オーナーの獲得及び既存オーナーの多店舗化に積極的に取り組みました。

以上の結果、売上高は532億61百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益は37億67百万円（前年同期比165.1%増）となりました。売上高につきましては、直営店の加盟店への移管による売上高の減少があったものの、既存店売上高が増加（前年同期比5.5%増）したことにより前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、既存店売上高の増加や粗利改善により前年同期実績を上回りました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、従来のヘビーユーザー向け商品施策に加え、朝食メニューの充実や販売実施店舗の拡大による朝食需要の拡大や、お客様がご自宅等でも店舗と同じように定食をお召し上がりいただけるよう、ごはん・汁物・おかずを別々の容器で提供する『おうち定食』の販売と継続的なキャンペーンの実施によるテイクアウト需要の拡大により、引き続きお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

以上の結果、売上高は120億72百万円（前年同期比7.3%増）、営業損失は12億91百万円（前年同期は、営業損失19億43百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の増加（前年同期比2.6%増）によって前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、既存店売上高の増加や粗利改善により前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、暑い夏でもさっぱりと食べられる『トマト鍋スープ』や期間限定の飲茶、特選具材を取り揃えるなど商品力を強化しました。また、ファミリー層をターゲットとした販促施策の定期的な実施により、お客様の来店促進に努めました。さらに、テイクアウトメニューやデリバリーサービスの拡大により、お客様の幅広いニーズへの対応を図りました。

以上の結果、売上高は8億96百万円（前年同期比11.2%減）、営業損失は1億91百万円（前年同期は、営業損失2億64百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少（前年同期比21.6%減）で前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、前述の影響があったものの、前年に実施した不採算店舗の退店により前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【海外事業】

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策や食材の現地化による店舗原価低減等により既存店の収益力を強化し、事業の黒字化を目指しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、一部の国や地域によっては政府の要請によりテイクアウトやデリバリーのための営業や、時間短縮や座席数限定の営業といった制約を受けるなど、厳しい事業環境が続きました。

以上の結果、売上高は14億72百万円（前年同期比14.4%増）、営業損失は3億50百万円（前年同期は、営業損失4億89百万円）となりました。

【その他】

㈱エムエスエフは、調味料・加工食品のOEM（相手先ブランド名製造）を主な事業としており、既存取引先への新商品提案を積極的に行うとともに、新規取引先獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用している調味料等の開発も行っており、商品数の拡大にも注力しました。

以上の結果、売上高は33億28百万円（前年同期比15.8%増）となりました。利益面につきましては、のれんの償却があったものの、生産量が増加したことによって営業利益は2億39百万円（前年同期比200.0%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ19億12百万円増加し、823億2百万円となりました。内訳は、流動資産39億42百万円の増加、固定資産20億29百万円の減少であります。流動資産の増加は、現金及び預金28億79百万円の増加、商品及び製品8億41百万円の増加などによるものです。また、固定資産の減少は、有形固定資産16億54百万円の減少などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ7億42百万円増加し、292億64百万円となりました。内訳は、流動負債10億3百万円の増加、固定負債2億60百万円の減少であります。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金9億64百万円の増加などによるものです。固定負債の減少は、固定負債のその他に含まれるリース債務1億9百万円の減少などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ11億70百万円増加し、530億37百万円となりました。主な内訳は、利益剰余金9億75百万円の増加、自己株式55百万円の減少によるものです。利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益21億25百万円の計上、配当支払による11億50百万円の減少などによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ28億64百万円増加し、133億56百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、49億55百万円（前第2四半期連結累計期間に使用した資金は7億24百万円）となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益37億6百万円、減価償却費26億1百万円、たな卸資産の増加額9億28百万円、仕入債務の増加額9億58百万円、法人税等の支払額8億35百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、7億83百万円（前第2四半期連結累計期間に使用した資金は15億86百万円）となりました。主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出9億3百万円、貸付金及び差入保証金の回収による収入2億1百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、12億65百万円（前第2四半期連結累計期間に使用した資金は7億45百万円）となりました。主な内訳は、配当金の支払額11億49百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の通期の業績予想につきましては、2021年4月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

(新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報)

新型コロナウイルス感染症の全世界における感染拡大の影響により、世界各国で入出国禁止等の渡航制限や外出規制などの措置が行われるだけでなく、国内におきましても緊急事態宣言が発令され、当フードサービス産業に重要な影響を与えております。また、国内ワクチン接種が進み改善の兆しが見受けられますが、影響がさらに拡大、長期化した場合には、店頭売上高が減少することに加え、原材不足や仕入価格高騰等が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当該リスクへの対応策として、当社グループは、食のインフラ企業として顧客満足を実現するため、保健行政の指針に従った感染防止策の徹底や、各自治体の自粛要請に沿った営業時間の変更等を実施するなど、顧客、取引先及び従業員の安全を考慮した店舗運営を実施しております。また、本資料発表日現在、当社グループ工場の安定稼働や原材料の十分な量の確保、デリバリーサービスの推進、やよい軒事業やMKレストラン事業のテイクアウトの推進等、事業に及ぼす影響の低減を図っております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,519	13,398
受取手形及び売掛金	3,013	3,200
商品及び製品	5,391	6,232
原材料及び貯蔵品	220	312
その他	2,968	2,895
貸倒引当金	△509	△494
流動資産合計	21,603	25,545
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	27,096	26,110
その他（純額）	13,368	12,699
有形固定資産合計	40,464	38,809
無形固定資産		
のれん	714	620
その他	1,214	1,086
無形固定資産合計	1,928	1,707
投資その他の資産		
繰延税金資産	3,704	3,636
その他	12,731	12,637
貸倒引当金	△43	△34
投資その他の資産合計	16,392	16,239
固定資産合計	58,785	56,756
資産合計	80,389	82,302
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,402	6,366
短期借入金	758	818
未払法人税等	959	1,557
賞与引当金	340	496
ポイント引当金	287	255
株主優待引当金	161	69
資産除去債務	6	5
その他	8,595	7,945
流動負債合計	16,511	17,514
固定負債		
長期借入金	1,075	1,037
資産除去債務	7,124	7,147
退職給付に係る負債	110	118
その他	3,701	3,446
固定負債合計	12,011	11,750
負債合計	28,522	29,264

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,714	4,702
利益剰余金	54,608	55,583
自己株式	△11,776	△11,720
株主資本合計	51,008	52,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△11	△9
為替換算調整勘定	4	87
その他の包括利益累計額合計	△6	77
新株予約権	223	203
非支配株主持分	641	729
純資産合計	51,867	53,037
負債純資産合計	80,389	82,302

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
売上高	68,169	71,032
売上原価	33,670	34,055
売上総利益	34,499	36,976
販売費及び一般管理費	35,723	34,832
営業利益又は営業損失(△)	△1,224	2,144
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	1	1
固定資産賃貸料	68	67
受取補償金	55	—
受取保険金	113	47
持分法による投資利益	4	40
助成金収入	—	1,341
その他	190	212
営業外収益合計	445	1,721
営業外費用		
支払利息	20	30
固定資産賃貸費用	2	2
その他	64	24
営業外費用合計	88	57
経常利益又は経常損失(△)	△867	3,808
特別利益		
固定資産売却益	4	4
特別利益合計	4	4
特別損失		
固定資産処分損	84	32
減損損失	842	71
その他	1	2
特別損失合計	928	106
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,791	3,706
法人税等	△133	1,492
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,657	2,214
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	88
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,696	2,125

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△1,657	2,214
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	1
為替換算調整勘定	△8	13
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	68
その他の包括利益合計	△16	83
四半期包括利益	△1,673	2,297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,712	2,209
非支配株主に係る四半期包括利益	38	88

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,791	3,706
減価償却費	2,952	2,601
減損損失	842	71
のれん償却額	93	93
有形及び無形固定資産処分損益(△は益)	84	32
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△24
賞与引当金の増減額(△は減少)	11	156
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	9	10
ポイント引当金の増減額(△は減少)	35	△32
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△38	△92
受取利息及び受取配当金	△13	△11
為替差損益(△は益)	△43	88
持分法による投資損益(△は益)	△4	△40
有形及び無形固定資産売却損益(△は益)	△4	△4
売上債権の増減額(△は増加)	△1	△179
たな卸資産の増減額(△は増加)	△881	△928
仕入債務の増減額(△は減少)	441	958
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,407	28
未払金の増減額(△は減少)	△638	△598
その他	△125	△25
小計	△480	5,810
利息及び配当金の受取額	13	11
利息の支払額	△20	△30
法人税等の支払額	△237	△835
営業活動によるキャッシュ・フロー	△724	4,955
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,843	△840
有形固定資産の除却による支出	△188	△29
有形固定資産の売却による収入	16	4
無形固定資産の取得による支出	△122	△62
貸付けによる支出	△36	△7
貸付金の回収による収入	106	99
差入保証金の差入による支出	△75	△26
差入保証金の回収による収入	272	101
その他	283	△21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,586	△783
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	570	107
短期借入金の返済による支出	△168	△120
長期借入れによる収入	54	—
長期借入金の返済による支出	△12	△13
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△1,146	△1,149
その他	△41	△87
財務活動によるキャッシュ・フロー	△745	△1,265

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△42
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,048	2,864
現金及び現金同等物の期首残高	9,820	10,491
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,771	13,356

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書（追加情報）に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等に関する会計上の見積りに用いた仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	51,752	11,246	1,009	1,287	65,296	2,873	—	68,169
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	1,058	△1,058	—
計	51,752	11,246	1,009	1,287	65,296	3,932	△1,058	68,169
セグメント利益又は損失(△)	1,421	△1,943	△264	△489	△1,276	79	△27	△1,224

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分です。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「やよい軒事業」、「MKレストラン事業」及び「海外事業」の各セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間中に退店が決定した等の理由により、回収が見込めなくなった店舗及び損益が継続してマイナスとなる店舗について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ575百万円、45百万円及び222百万円です。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	53,261	12,072	896	1,472	67,703	3,328	—	71,032
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	1,370	△1,370	—
計	53,261	12,072	896	1,472	67,703	4,699	△1,370	71,032
セグメント利益又は損失(△)	3,767	△1,291	△191	△350	1,933	239	△28	2,144

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分です。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。